

ほのぼの

第12号

平成18年
3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209
信行寺門信徒会

親鸞聖人御尊影



弥陀大悲の誓願を

心かく信ぜんひとほみな

ねてもさめてもへだてなく

南無阿弥陀仏をとなくべし

宗祖親鸞聖人年譜

年号	西暦	年齢	事項
承安三	一一七三	一	ご誕生
養和元	一一八一	九	青蓮院にてお得度され、比叡山でご修行
寿永元	一一八二	一〇	恵信尼さまご誕生(親鸞聖人の妻)
建仁元	一一〇一	二九	法然上人の専修念仏に帰依
元久二	一一〇五	三三	奈良の興福寺、専修念仏禁止を上奏
承元元	一一〇七	三五	専修念仏停止によって越後(新潟県)に流罪(承元の法難)
建暦元	一一一一	三九	流罪を赦免される
建暦二	一一一二	四〇	法然上人ご往生
建保二	一一二四	四二	常陸(茨城県)へ移り関東でご教化(東国伝道)
元仁元	一一二四	五二	このころより『教行信証』をご撰述
嘉禎元	一一三五	六三	覚信尼さま(宗祖末娘)ご誕生 このころ帰洛
宝治二	一一四八	七六	如信上人(宗祖孫)ご誕生
康元元	一一五六	八四	『浄土和讃』『高僧和讃』を著される
正嘉二	一一五八	八六	子息善鸞さんを義絶
弘長二	一一六三	九〇	『正像末和讃』を著される ご往生
文永五	一一六八		恵信尼さまご往生
文永九	一一七二		大谷廟堂を建立

親鸞聖人七百五十回

大遠忌についての消息

平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人の七百五十回忌にあたります。本願寺では、ご修復を終えた御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要を平成二十三年四月よりお勤めすることになりました。このご勝縁に、聖人のご苦勞をしのび、お徳を讃えるとともに、浄土真宗のみ教えを深く受けとめ、昏迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

親鸞聖人は承安三年に御誕生になり、九歳で出家得度され、比叡山で学問と修行に励まれました。しかし、迷いを離れる道を見いだすことができず、二十九歳の時、聖徳太子の示現を得て、源空聖人に遇われ、本願を信じ、念仏する身となられました。三十五歳の時、承元の法難により、越後にご流罪となられますが、後にはご家族を伴って関東に移り、人びとと生活をともにし、自信教人信の道を歩まれました。晩年は京都で、ご本典の完成に努められるとともに、三帖和讃など多くの著述にお力を注がれ、九十歳を一期として往生の素懷を遂げられました。

親鸞聖人によつて開かれた浄土真宗は、あらゆる人びとが、阿弥陀如来の本願力によつて、往生成仏し、この世に還つて迷えるものを救うためにはたらくという教えです。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日々を過ごさせていただくのです。

仏教の説く縁起の道理が示すように、地球上のあらゆる生物非生物は密接に繋がりを持っています。ところが今日では、人間中心の考えがいよいよ強まり、一部の人びとの利益追求が極端なまでに拡大され、世界的な格差を生じ、人類のみならず、さまざまな生物の存続が危うくなっています。さらに、急激な社会の変化で、一人ひとりのいのちの根本が揺らいでいるように思われます。私たちは世の流れに惑わされ、自ら迷いの人生を送っていることを忘れがちではないでしょうか。お念仏の人生とは、阿弥陀如来の智慧と慈悲とに照らされ包まれ、いのちあるものが敬い合い支え合つて、往生浄土の道を歩むことでもあります。如来の智慧によつて、争いの原因が人間の自己中心性にあることに気付かされ、心豊かに生きることで世の中、平和な世界を築くために貢献したいと思います。

私たちの先人は、厳しい時代にも、宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに、助け合ってこられました。この良き伝統を受け継がなければなりません。しかしながら、今日、宗門を概観しますと、布教や儀礼と生活との間に隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交替にも対応が困難になっています。

宗門では、このたびのご法要を機縁として、長期にわたる諸計画が立てられ、広く浄土真宗が伝わるよう取り組むことになっています。七百年大遠忌に際して始められた門信徒会運動、重要な課題である同朋運動の精神を受け継ぎ、現代社会に応える宗門を築きたいと思えます。そのためには、人びとの悩みや思いを受けとめ共有する広い心を養い、互いに支え合う組織を育て、み教えを伝えなければなりません。あわせて、時代に即応した組織機構の改革も必要であります。

それとともに、各寺各地で勤められる大遠忌法要を契機に、その地に適した寺院活動や門信徒の活動を、地域社会との交流を、そして、寺院活動の及ばない地域では、一層創意工夫をこらした活動を進めてくださるよう念願しております。

宗門の総合的な活動の新たな始まりとして、皆様の積極的なご協賛ご協力ご参加を心より期待いたします。

平成十七年 一月九日
二〇〇五年

龍谷門主 釋 即 如

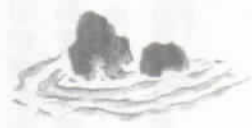
平成二十三年四月から二十四年一月

法要告知の「高札」立礼式



親鸞聖人のご往生

信行寺 住職



親鸞聖人は、一二六二年、陰暦の十一月下旬のころから体調をくずされて、ほぼ一週間ほど伏せられておられました。

それからは、「口に世事をまじえず、ただ仏恩のふかきことをのぶ。声に余言をあらわさず、もっぱら称名たゆることなし」であつたと伝えられています。

世間的なことをあまり口にされずに、阿弥陀さまの教導きによつて、すばらしい人生を歩ませていただいたご恩を述べられるばかりであり、たえずお念仏を称えておられました。

こうして、十一月二十八日、お釈迦さまご入滅の故事にならわれて、北枕(頭北)、西向き(面西)、右わきを下にして横になられ、やすらかに、九〇年の波瀾万丈の生涯をとじられました。

そのときの状況を、「ついに、念仏の息、たえましおわりぬ」と伝えられています。

このことばは、一息一息がお念仏の声であつたことを伝えていると思いますが、それとともに「お念仏を称え、お念仏を聞き、お念仏に導かれたご一生であつたこと。生き生きとした人生を歩ませてくださる阿弥陀さまのお念仏の道を、わたしたちに伝えるために尽くされたご一生であつたことを教えてください。

わたしたちは、「まだまだ大丈夫、死にはしない」とつい思つてしまいますが、どのように思つていても、いつまでも生きておれるわけではありません。必ず最後があります。そのときを、どのように迎えるかを考えておくことも必要ではないでしょうか。

生まれるのも、老いるのも、病にかかるのも、死ぬるのも人生です。この人生を親鸞聖人のご一生に学ばせていただいたこうではありませんか。「学ぶ」ということは、真似ることです。どうせ真似るのなら、親鸞聖人の真似をさせてもらいましょう。



「何よりの贈り物」

「うちは誰も死んだ人がいないから、仏壇なんていりません」

こう言われる人は非常に多いですね。世の中に、「誤解」は数限りなくあるものですが、仏壇は誰かが亡くなつてはじめて求めるもの、という誤解も、堂々とまかり通つていきます。

したがって、核家族が多くなつた現代社会では、お仏壇がない家庭が普通のようになつてしまつてゐるのです。

しかし、お仏壇がないという事は、手を合わす場所がないということですね。これは本当に何気ないようなことなのですが、手を合わすという習慣ほど大切なことはいりません。現代の日本が抱えてしまつた社会問題の原因の多くは、手を合わすことを忘れてしまつたことによるものだと言つてもいいほどです。特に小さな子が、手を合わすこ

箱 小 の 事 仏

とを知らないままに、大きくなり親となつてしまふことが困るのです。

ある人が、今度結婚して別居する息子さんのために、お仏壇を置くように勧めました。仏壇といつても、一般に思われているような大きなものではなく、高さ二十四センチの、小さなお仏壇です。これならちよつとした棚の上にも置くことができます。

ご両親の願ひは、これから家庭生活を営んでいこうとする若い夫婦に、いかなる人生であつても、その人生を量り知れない光明で照らし、護つてくださる阿弥陀さまが、いつも一緒にいらつしやることを知つてもらいたいのです。そして、やがて生まれてくる孫に、手を合わすことのできる場所を与えたいんですね。何よりの子や孫への贈り物なのです。(御堂さんより)

仏教との出会い

田結庄義博

私が仏教と初めて本格的に出会つたのは、『歎異抄』を読んだ時です。衝撃的でした。第三条の悪人正機説、第四条の浄土門の慈悲観、第十三条の宿業観など。夢中になつて、毎日『歎異抄』を読みました。そして、もつと浄土真宗のことについて学びたくまりました。

京都に居るときは、また夜が明けないうちから起きて、西本願寺のお晨朝に通つた事もあります。なぜ西本願寺かと申しますと、その頃私が影響を受けていた作家の五木寛之さんが、龍谷大学に学んでおられたからで、浄土真宗といえは五木寛之さん、西本願寺だ、と先入観があつたからです。

また、「浄土真宗では“聴聞”が肝要」と聞き、タウンページで法座のあるお寺を探しました。私は、週末は実家に居るので板宿近辺で探したところ、信行寺様に出会つたわけです。そして護法会などに加えて仏教青年会と色々とお世話になり、貴重な聴聞の機会を頂いています。

後になつて知つたのですが、私の家の宗旨は偶然にも、浄土真宗本願寺派なのでした。

『歎異抄』との出会い、西本願寺のお晨朝そして信行寺様での聴聞と、色々な事が阿弥陀様のお導きであるように思えるのです。

「思い出の写真から」

長井輝子

昭和六十三年十月信行寺開基六十年を記念して大法要が勤まりました。
この年の春頃、米田住職は何気なく信行寺の過去帳を



繰っておられアレッと感じられたのがそもそもの始まりだったとのこと。
折りしも親鸞聖人と蓮如上人の御厨子の御寄進もありお内陣の荘厳は一段と輝いて御立派でした。
写真の仏教讃歌のコーラス隊はこの時から始まり現在の「みやび会」の原点となりました。

ちなみにこのガウンは京都の法衣店へわざわざ出向いて検分し注文した制服です。

合掌

仏教讃歌とともに

谷川 恵美子
中川 さなみ

信行寺みやび会は、昨年十一月二十三日、秋の法要「御堂演奏会」に参加させていただきました。

練習に練習を重ねて、当日は総御堂に響く六百余名の仏教讃歌の歌声の中に私たちもいるという感動的な経験をいたしました。

その後、一月十五日の「御正忌報恩講奉讃演奏会」の仏教讃歌もすばらしいと坊守さんからお聞きして「ぜひ聞きに行きたいです」と寒い中、体調の良い数人での参拝となりました。プロの歌声の仏教讃歌の名曲の数々が聴けて又、一緒に歌ったりと楽しい時間を過ごしました。

御正忌報恩講は一昨年、ご住職の「特別講演」で初めて参拝させてもらいましたが、このたびのようなご縁をいただいて、有難く思いました。

今回、私達は十五日の日中法要からの二日間だけの本山参拝でしたが、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ全国の門信徒の方々の熱い思いがひしひしと伝わってきました。

「御正忌報恩講奉讃演奏会」のあとの通夜布教でも、多

くの門信徒の方々が、夜を徹してご聴聞されており、私たちも一緒に時間を忘れてご法話に聴き入っていました。十六日にはご晨朝と、御満座にも初めてお参りする事ができました。

来年もまた参拝できることを願って、帰路に着きました。



合掌

毎月の行事 信行寺

毎月第一日曜日 午後二時より

護法会法座「蓮如上人御一代記聞書のお話」

毎月第二日曜日 午後七時より

仏教講座 「教行信証のお話」 住職

毎月第三土曜日 午前十時より

仏教讃歌のつどい コーラス みやび会

毎月第三土曜日 午後二時より

定例開法のおつどい 法話 住職

法義示談（信仰相談） 住職

青少年心の相談室

（仏法の質問に応じます） 副住職

月一回日曜日 午後四時半～六時半まで

仏教青年会 副住職

ご案内コーナー

信行寺門信徒会総会と法話のご案内

皆様のご協力のお蔭で門信徒会が発足できまして、早や四年になります。

さて、本年も左記のとおり総会を行いますので、是非とも、ご参集よろしくお願い申し上げます。

なお、当日は総会のあと、ご住職の法話がありますのでご聴聞ください。

記

◆日時 平成十八年四月二十二日(土)

午後二時～午後四時

◆場所 信行寺(〇七八―七三二―五二〇九)

◎平成十八年度の年会費一、二〇〇円は当日納入してください。

◎当日欠席のお方は振込みください。

郵便振替の番号等は次のとおり

(記号番号) 一四三六〇―六四一〇六八三一

(名 称) 信行寺門信徒会

参拝旅行のご案内

山陰の妙好人(才市・善太郎同行)を

訪れる 一泊旅行

日時・平成十八年四月二十四日(月)

～二十五日(火)

◎申し込みは、なるべく早くお願いいたします。

お釈迦さま生誕お祝い

花まつり 子供大会

四月九日(日)正午～

編集後記

今回も「親鸞聖人七百五十回大遠忌」について特集しました。

ご門主の「ご消息」をいただきこのたびの大遠忌法要に協賛し協力していききたいと思います。